

JSCA 千葉ニュース（夏）

発行（社）日本建築構造技術者協会 JSCA千葉（広報委員会）
〒261-0004千葉県千葉市美浜区高洲3-20-38（株）齋藤建築設計事務所内 TEL 043-225-2181
FAX 043-277-0906

JSCA・千葉 第11回総会開催される

■通常総会について

平成20年6月6日（金曜日）午後1時30分～2時30分、三井ガーデンホテルにて32名の参加を頂き、第11回通常総会が開催された。

齋藤代表より以下のような挨拶があった。

「JSCAの今後のあり方、建築構造士の構造設計一級建築士全員合格に向けての支援、設計報酬と資格に関する問題、耐震改修促進法に対するスムーズな対応とJSCAの役割、適合性判定における諸問題への対応などJSCAの役割は多岐にわたり、かつ問題山積といった状況にある。JSCA・千葉の会員の皆様には、日頃より適合性判定、構造レビュー、耐震診断などに対し積極的にご協力頂き、心より感謝申し上げます次第です。今後ともご協力の程よろしくお願い申し上げます次第です。」

議題は第1号議案から第4号議案の事業報告、決算報告、事業計画、予算案について説明がなさ

れ、承認されました。

また、第5号議案役員改選については、多くの継続課題を抱えていることから、代表、副代表をはじめ、役員を一部増員するものの、現状体制を維持することで承認された。



第11回通常総会、出席状況

また、総務委員長として活躍していただいた坂惠一己（坂惠技術士事務所）氏は、今期で引退されることとなりました。今まで大変お世話になりました。ありがとうございました。（二面に続く）

JSCA千葉役員会議事録抜粋（佐藤）

役員会 代表 齋藤美佐男 副代表 向後 勝弘 園部 隆夫 総務委員会 向後 勝弘 園部 隆夫 長内 光雄 佐藤 暢彦 西澤 博文 明智 孝夫 齋藤 利彦 椋山 誠治 榊原 裕繁 菅谷 修作 研修委員会 園部 隆夫 市原 嗣久 西原 忠 竹下 章治 西澤 博文	広報委員会	安田 良一 菅谷 修作 加藤 義道 富島 誠司 市原 嗣久 富島 誠司 榊原 裕繁 園部 隆夫 加藤 義道 佐藤 暢彦 明智 孝夫 向後 勝弘 飯島 宏治 真崎 雄一	平成20年度 第2回5月21日 (15:00～17:00) 出席：齋藤代表他15名 1. JSCA本部および関連他団体についての報告 2. 検討事項 (1)JSCA千葉平成20年度総会の打ち合わせ（議事・進行等）。記念講演をJSCA会長木原氏に依頼。演題「構造設計者と行政改革の概要」となる予定。総会資料の確認 (2) 我孫子市「マンション耐震診断士」の構造士への協力依頼について。	第3回6月19日 (16:00～18:00) 出席：齋藤代表他19名 1. JSCA千葉本部および関連他団体についての報告 2. 検討事項 (1) 6月6日のJSCA千葉総会報告。総会・懇親会に例年以上の参加があった。総会会計報告。本会計より持ち出しについて。 (2) 新役員の自己紹介と各委員の配置決定。 (3) 鉄骨工業会の講習会の協力依頼について。	(16:00～18:00) 出席：齋藤代表他13名 1. JSCA千葉本部および関連他団体についての報告 2. 検討事項 (1) 銚子市飯沼観音五重塔見学会参加の案内。 (2) 千葉県職員採用についてHP掲載の承認。 (3) 関東甲信越支部総会の資料確認。 (4) 4号物件の構造計算が必要となるが、JSCAとしての対応。 (5) 千葉県主催の耐震診断講習会について。
	技術委員会	HP委員会	監事	第4回7月29日	



会員レポート

「構造設計者の資格制度とJSCAの将来」

（一面からの続き）

■記念講演会について

平成20年6月6日の午後3時～5時までは記念講演会として（社）日本建築構造技術者協会会長 木原碩美氏による「構造設計者の資格制度とJSCAの将来」というテーマについて講演を頂いた。参加者は100人であった。

講演の前半では「耐震偽装事件と建築行政改革の概要」について

- ・構造計算偽装事件概要
- ・事件再発防止建築行政改革
- ・審議会報告書とJSCA総括

について講演を頂いた。

後半では、「建築構造設計者資格制度とJSCA」について

- ・資格問題の経緯
- ・一級建築士の業務独占権限
- ・偽装事件後改革と構造設計一級建築士
- ・構造設計者の資格
- ・新資格制度移行期の処置
- ・新資格制度 今後の予定
- ・事件再発防止改革を経て今思うこと
- ・改革の画龍点睛のためのJSCAがなすべきこと
- ・JSCAの将来と資格制度
- ・JSCAの将来
- ・報酬問題

等について講演を頂いた。



懇親会で挨拶される木原会長

姉齒事件以来の再発防止建築行政改革におけるJSCA案の提示と他団体との攻防が如何に困難を極めたかを十分理解できる説明を頂いた。

また、以下のような質疑がなされた。

・業界は細分化、分業化されている。構造種別、建物用途、工法 などにおける専門性を考え、JSCA認定の専門家を設けることも必要ではないか

— 今後考えてゆくべきことと認識している。 —

・構造計算等のプログラム作成

エンジニアも構造技術者ではないのか。

— 取り扱いについて申し入れをしてゆく。 —

・構造設計者に対する報酬規定の見直しとともに、その規定を如何にしたら順守することができるかを考える必要がある。

会員委員会定期便

JSCA千葉「見学会」を10月頃に予定しています。

（明智・斉藤・相山・榊原・筈谷）

— 関係者が十分認識をしてゆく必要がある。 —

・適合性判定におけるクレームが多い。特に回答ができないような無理な質疑があるとの連絡を受けている。

— 適合性判定に対する問題がありましたら、JSCA本部にFAXでも結構ですので申し入れをしてください。 —

（園部 隆夫）

銚子市の飯沼観音五重の塔造営の工事の見学会

有限会社西原建築設計事務所 西原 忠

平成20年8月1日午後2時現地に集合し、まず現場事務所にて大成建設の所長さんより説明を聞く。私は故郷でもあり、子供時代にはたくさんの思い出があるこの飯沼観音に五重の塔が建つと聞いて大変興味深く聞いた。



最上層（北側には利根川が望める）九輪は未施工

主体構造は鉄骨造で木造の屋根と壁等の周辺部を支える床（コンクリート）と鋼管の柱及び鉄骨梁架構によって組み上がっている。

工事は既に木工事が最上層の屋根部まで進んで、造作は総吉野檜造で最終段階に来ているようだ。屋根工事も、塗装工事も装飾物も下から進んでいる。工事は今年一杯で完了とのこと。

次に現場の見学に入った。屋根の架かった独特の仮設でいつものとは違って少し緊張気味であったが、気さくな感じで所長さんが説明してくれたので、かなり気楽に質問ができた。

木造の木組みや装飾的な話などが多く、構造的にはほとんど質問が出なかったものの、木の持つ軽やかさや、繊細さまた美しさも感じられ、学生時代に始めて受けた授業のような感動を受けたのは自分だけではなく、かなり皆さんも興奮気味の感を受けたように思いながら現場を後にしました。

（追記）私個人としては、全て木造で作って欲しかったが、地図に載る仕事ということで、全力を傾けていた所長さん以下、職人さん達の姿も輝いて見えた。きっと立派な塔が完成して来年の正月には、近郷近在から五重の塔のお参りで大賑わいになるのが目に浮かぶ。もちろん私もお参りに行くつもりです。

訪問インタビュー第1回

千葉県建築家協会会長 宇野武夫氏に聴く

去る7月17日(木)午後、JSCA千葉・広報委員4名(富島・加藤・筈谷・安田)は千葉県建築家協会・宇野武夫会長の会社を訪問して、2時間にわたりご自身のこと、作品のこ



と、構造設計者との交流についてお話を伺ったので報告いたします。

安田:今日は本題的には、建築家協会とJSCAの親睦はどのように計れるか、お互いに困っていることはないかということをお話したいと思います。最近、耐震改修の仕事をとった意匠事務所が、構造設計者の調達ができずに指名停止になったことが複数件あります。このような事件が発生する事の背景、対策について後で伺いたいと思います。さて、せっかくお訪ねしましたので、まず宇野さんの略歴からお願いします。

宇野:私は、大学に行ってもせんから市川工業高校が最終学歴です。経済的にそういうチャンスがなくてね。僕の親父は大工さんで大工の息子だから子供の頃から、家をつくる人になると思っていました。中学卒業した頃から、人が考えた建物でなく自分で考えて作らないといけないなあ、どこか行かないと、ということで市川工業の建築科に行った。それが始まりです。

筈谷:お父さんの手伝いもしましたか?

宇野:もちろん、屋根上って野地板をトンカチで打つとか、かんなを削るとか。中学の頃は、数学が得意だったかな。

加藤:デザインと数学とは一致するとかよくいう話で、芸術家って数学が得意。

宇野:市川工業高校の担任が構造の実務者でもあったので。卒業する頃は、意匠か構造どっちでもいよいよねって状態でしたが、他にデザインを教える先生が、榎本設計っていうのが千葉にあるから、そこに行ってみなよって言うんで、夏休みなんかには模型を手伝いに行ってた。給料の多寡で会社を決める気もないし、大手に行く気もなく3年間だけ、どこか小さい所で勉強したいって思ってた。(中略)

僕が入った時には11人位居たかな。数年経った頃、東金中学校という指名コンペがありましてね、それに当選しまして担当することになった。

富島:まだこういう仕事して間がないのにですね。

宇野:5,6年ですね。

筈谷:昭和何年頃ですか?

宇野:昭和46年。一級の免許は27歳だったかな。最短でとれました。コンペはそのころ2,3個勝てましたね。たとえば東金中学校は新建築(雑誌)に取材された。麻生公民館とかもね、いくつかの本に紹介されました。

安田:そんな若くて、もう立派な仕事されてるんですね。

一同:うーん、すごい。

宇野:もうボチボチいいかなと思ったけど、当分出ちゃいけないって。それで聴講に行かせればやめないだろうって、某大学

に聴講に行かされるんですが、、、あんまり効果がないんだよね。設計者がいないのに設計を教える、設計したことのない先生がライトがどうのって言うてもね、、、。ただスライドだけはいっぱいある、これは自分でスライドを見ちゃった方がはやすい(笑)。それからヨーロッパに行ったんですよ。行ったって(留学じゃなく)旅行ですよ。たまたま吉阪隆正さんの「ユネスコ協会の若い建築家の教育の旅」みたいな名のツアーがありましてね、二週間くらいかな。イタリアとかに滞在した。やっぱり自分で見なきゃダメだなと思ってそれから20回位。(この後トリノの教会についての話は、文筆及ばず中略。)

ヨーロッパの近代建築史を全部見てやろうって思ったの、自分の目で。これ見た、あと見てないのはこれだ。これ見なくちゃいかんって。医者で言うと、外科医でも年間200例以上やっていると。数見る、こなす。建築も空間体験して、自分で空間を考えて、数を見なきゃ。本物を見なきゃ。

吉阪隆正先生と

旅をしてそれは勉強になったんじゃないかな。

富島:20代でヨーロッパに飛び出して行くなんで。行きたくても行けなかったですよ。

宇野:雇われた頃はね、竹中、清水、そういう連中は1万5千円だった。事務所は9千円だった、かつこ悪くて言えないよ。

そんな中で借金して行っただ。

加藤:自分に対しての先行投資ですね。

宇野:いや投資でなくて、ただ見たい。聴講行ってもつまんない、勉強はしたい、それで思いついた。

(中略)

安田:ではそろそろ40代、50代の頃を。

宇野:自分で始めたのは42です。なんでここでやってるかっていうとね。医者が居ないところは無医村っていいですね。弁護士が居ないところは無法地帯。建築家がない町はどういうところかね。生まれてお世話になって、ここに住んでるわけですよ。建築家はいないとまずいよって。人口6万人。無医村とか言われたんじゃないかこわるいし。袖ヶ浦から出ないようにして、ここに事務所をつくらうって。

建築単体でなくて、向こう3軒両隣くらいのことを考えること、自分たちの生活空間の基本。これがよくなると。単体がよくても、町並みはよくなると。

安田:設計作品に病院が多いですよ。

筈谷:恵まれてますね。

安田:値段が高そう?(笑)。

宇野:ははは、そう見えるかもしれないが苦勞もあるのよ。

富島:病院で特殊な分野で誰でもできるモノじゃないもの。

宇野:病院もたまたま縁があつて。

加藤:山王病院(千葉市)もそうですよね、入り口のところが印象的ですよ。

安田:看護学校のファサードはなにか教会的な印象があります。

宇野:ああ、あれは教会っていうよりもね、ナースのキャップです。そのイメージです。もっとも教会もやってますけどね。

(中略)

安田：たくさんの公職にもつかれてますが、お世話様です。
 宇野：公職ってのはしょうがないんです。一つは若い頃、榎本設計でお世話になった。お世話になったが榎本博庸って人は亡くなったわけです。恩返ししたくとも、亡くなった人に対しては何もできないわけですが、次に明智克夫という人がいて、僕のボスですよ。辞めるときに3年だけ時間下さいって、3年たったなら人の役に立ちますって約束したんです、社会的な役。その間だけは私を当てにしないで下さいって。3年してね、学生賞、若い連中を育てなきゃいけないっていうので写真撮ったり4~5年やったのかな。7年目から審査委員にさせられて、11回目で審査委員長やれって言われて。13年目から座長。20回くらいまで会をまとめましょうっていう。立ち上げた桑田さんとか明智さんとか士会の周郷さんとかね。3年たったならなんか少しね、自分のことだけでなく。社会的なことね、一応約束は果たしたっていうことになりますか。

安田：50前ですよ。

宇野：そうですね。45歳くらいからですね。多少の恩返しっていうか。

富島：会長になられて何年ですか？

宇野：今3年。でもそろそろいいでしょうね。

安田：耐震判定協議会の会長もやっていただきましてお世話になり有り難う御座いました。

(中略)



宇野：ちょっと教会の話をしてしましようか。教会って面白い。さっきの吉阪さんの話に戻んですけど。25歳くらいにロンシャンをみたい、僕はお金ないからやっとな借金して行くんですよ。吉阪さんの研究室生達と同席したのですが、ローマからパリまで車で行くんですけど、彼らは途中で分かれてレンタカー借りてロンシャン見ると言うんですよ。俺もみたいが、金もないし、涙をのんでねえ。(かなり悔しそうでした)

それから20年くらい後、事務所開いてから年1回旅行する事に決めるので、ある時里昂からパリまで15時間くらいかな、バスで移動。ロンシャンについたら30分ですよ、ロンシャン見たくて行ったのに、着いたらもう行きますよって言われたんですよ。なんなんだよ、じゃ悪いけど降りるわって、後で追っかけるからって、それでバスを降りて3日間滞在しました。宿も地図も金もないが、何とかなるんですね。そんな旅をして帰ってきたら、お隣さんがね、教会の設計してくんない？っていうんですよ。

富島：ロンシャンってアルプスの山のなかにある有名なやつですよ。

宇野：ええ、ペルフォートっていうんですよ。そんなんで隣の

人の依頼で、教会の設計してね、帰ってきてから。クリスチャンじゃないですけど集会なんかに参加して。それが建築士会かなんかの賞もったりしてね。献堂式に出て、別の牧師さんに出会って、共鳴してもう一つ作ったり。人間って面白いですよ。

安田：宇野さんが得意としているのは病院という印象でした。



宇野：僕がよく言うのは、建築というのは、人の生活空間ですよ。宇野はよく病院の専門家ですよと言われるけど、建築の専門家です。住宅もやるし病院もやるし学校もやるし、お墓もやるしね。だから、動物の生活空間もやります。牛の糞尿処理はね、それは農家の人が生活の為に牛を飼ってね、出てきたウンチがみんな困るんでね。国から補助金もらって、堆肥にしたと。そういう生活空間をやります。朝起きて寝て、生まれて亡くなるまでが、生活の空間ですよ。

それともう一つは地域です。アメリカやヨーロッパでなくて、今の地球上のこの点。千葉のこの点ですよ。千葉県内に生活する人のための生活空間をつくと。今何やってるのって言われたら、医者への応援団ですよ。今はね。病院なり医者の。ある時は学校の応援団だったり、宗教建築だったり。

(休憩を挟んで)

加藤：(壁の写真を見ながら)あれは新しそうですね。

宇野：これは新しく無いですが仕事始めた頃、市から受けた思いのある福祉作業所。木造はいいよねえ。これはね渡辺さんに基礎だけ頼んで。今は彼と明智隆夫さんに頼んでますね。構造屋さんで顔見えないとね。

筈谷：パートナーとしてですよ。

宇野：組んでやりますからね。

安田：今、パートナーって言葉でましたね。

宇野：やっぱりね下請けじゃないよ。ああいう言葉は失礼だと思うよ。ぼくは病院をやってますでしょ、あっち(千葉)で10年、こっち(袖ヶ浦)で10年くらい。こっちの院長のお兄さんは早稲田の建築科です。忙しいから宇野さんどうって、忙しいお兄さんの応援団設計者として入ったんだよね。それで、平成通りに橋架けようってなって、でかい道路に橋かけられないよ、でもそれは建築基準法上架けられるんです。そのときに僕が計算するわけじゃない、世の中には構造設計者がいます。僕はトータルの建築考えるけど、構造やら設備やら別の人がいるんですよと、こういう話をします。地鎮祭などの時にメンバー紹介しようって行って、みんな来てもらって。もしこの橋が壊れたらこの人が悪いんですよってね。みんな笑ってますけどね。仲間ですから下請って意識じゃできないんじゃないかな。

加藤：結構そんな感覚の人も多かったですね(苦笑)。だんだんよくなると思います。

安田: JSCAにはどんな感じをお持ちですか?

宇野: 有り難いと思っています。よく呼ばれて挨拶させられるけど、一番大事な会だよね。ちゃんと建築家として存在するための、バックボーンではないですか。例えば東京国際フォーラム有りますよね、ラファエル・ヴィニオリがああいう設計したってね、渡辺邦夫という人がいないとあんなガラスの箱はできませんよね。非常に知的な作業だと思います。そういうことやってくれるのは、構造屋さんですよ。とりもなおさずJSCAのメンバーってことになります。僕らはアイデアを出すけれどいっしょに考えてかなえてくれるのはJSCAのメンバーって思います。(拍手)

今日はそういう意味でね、ジェノバのねレンゾ・ピアノの写真を見て下さい。彼は海の中に基礎を造り、ワイヤーを逆に引っ張って、遠くから見てこれがじゃまにならないんですよ。海の中だからこれがマストに見えます。こういうのはね、構造デザインですよ。素晴らしいよね。構造は素晴らしいと思う。

もしかしたら僕もなっていたかもしれないけど、デザインの方にね来ちゃった。これと同じような緊張感は国際フォーラムの柱にもあると思うね。ガラスの箱にね。

安田: 現状の問題ですが、JSCAと建築家協会のコラボでいかなないと停滞が打破できないんじゃないのっていう危惧があります。

構造技術者の不足というか、余計な仕事が増えたことでの停滞の対策案ですが、市役所の掲示板に、譲ります・譲って下さいってありますよね。構造も建築家もね、そういったメッセージを発信・受信する場が欲しいですね。

宇野: そうですね、普段の交流はもっとあっていいのかなって。さっきも言いましたが顔が見えないとね。意匠の人でもねあの人がやってるんだらうか。あいつあんなのが好きなんだ、こういうの得意なんだとか。お互い刺激するっていうか、そういう場があるといいですね。

安田: ホームページを活用できませんか。JSCAのHP委員長の加藤さんがいますけど。

加藤: 構造側からも、こういう案件が得意だとか、こういうことで困るとか、誰か手助けしてくれませんかとか。両方見て分かるようなね、一つそういうページを作ってみようか。

宇野: JSCAどこで会議されてます?。ダブルこと考えませんか。今度銚子の五重塔の見学会有りますが、人数多いからJSCAと意匠屋さん別の日になったって。これを半々にするとかね。お互いの視点があるから。交流することがいいかもね。

安田: 交流方法の具体論をお願いします。

宇野: 耐震でもパターン化できないものがでてきたとき、お互いのスムーズな協力が必要になります。事務局の出入りももっと開放的にして、意見交換しやすくするといいですね。

それと設備の人なんかもいましてね、県の指導課、営繕課、施設改修課等と話し合っています。土法や景観の問題だとか、設計料率や期間の問題だとか。建築会館に設備屋さんも入ってくればね、話が見えやすいと。あと若い人の育成が必要ですね。

一緒に、年何回か決めて、今週は構造やろうとか講習会の開催。優秀な講師いっぱいいらっしゃるから。まずは知り合うことが必要ですね。

(中略)

富島: 免震のことをちょっと、君津に中央病院できてね。あれが免震で、こっち方面に免震が普及するかなと期待してましたが進まない。知り合いの病院関係者に免震を宣伝してるけど、宇野さん達のお力があるって病院に免震が広がってゆけばと期待

しています。

答谷: この前東北の病院が免震構造でしたが、病院は医療機器が高価なので免震がいいよね。

宇野: 進まないのはねコスト、そして手続きの

時間。病院の場合は時間が勝負なんですよね、民間の場合は。スタートしたらいかに短時間で仕上げようということがあります。免震はいいものだけど、制度にスピードがない。

いま医療費が非常に低いので、経営も大変。免震にしたら国から補助がでてコストが95%でできるとか、JSCAもその辺のことをやれたら良いかもしれませんね。

富島: 私立病院といえども準公的建物ですよ。

答谷: 耐震診断・改修に補助だすのと同じじゃないかな。地震の時に被災して機能しないっていうのじゃ困る。

宇野: ここの病院の場合、免震も検討したけど、コスト、時間の問題でできなかったのです。他が潰れてもここだけは残そうと言うことで構造耐力を25%アップしました。

(ティータイム)

安田: では結論でなくてよいですが、最初にお願いした話題に移ります。

答谷: JIAの中で構造設計者不足の問題はありませんか?

宇野: ありますね。こないだ、ある人が構造設計者を求めて全国の事協に聞き回ったとか。僕らは実施設計やらないといけないから。仲間内でも耐震診断に人を捕られて構造設計者がいない、これじゃ困るよね。

答谷: 構造やっても、パートナーとして責任を分担してやっていけるような人と仕事したい。あまりいなかったの。

安田: パートナリシップでやってこれた所は多くないと思います。大部分は下請けでやらざるを得ないのね。(時間的に助言できない状態も多い。)

富島: 一般論の話、仕事はいつもあそこに頼めばなんとかやってくれるっていう信頼感が薄れてきていて、今回は勘弁してとかさ。忙しいけどなんとかやってくれるよっていうのが薄れている。

加藤: 仕事が多すぎるんですよ。付き合いのある方っていうのは優先しますが、この仕事をこなすだけでも大変。圧倒的に人員が足りない。特に若い人が。

安田: 交流する上では飲み会が必要じゃないかなと(笑)。

富島: 役員会ある時は、だいたい飲み会。月に1回は勝手なことを言い合ってます。

加藤: おおいにやったら良いですね。

宇野: だからそういう交流しながら若い連中を巻き込んで一丁やろうかって。どうしたらいいんでしょうね。

加藤: そのためには我々、年上連中がしっかりチームワークをくまなければいけないと思います。その中で青年部会的なものを作って、ね。

安田: 会長にはインタビュー受けたよって報告して頂けたら、交流のきっかけができると思います。今日は長時間、有り難う御座いました。

(広報委員会)



セсна機がくぐれそうな「袖ヶ浦さつき台病院」の立体橋

マサコラム 14

「これでいいのだ〜」「これでいいのだ〜」

ギャグ漫画の元祖の赤塚不二夫さんがお亡くなり葬儀の出棺に「これでいいのだ〜」「これでいいのだ〜」の天才バカボンの主題歌が流されたとの事。改めて単純な言葉のメッセージの重み、深みに考えさせられました。

我々、構造設計者の仕事の習性からかもしれませんが、人間関係で生じる事柄でさえも理屈で物事を判断し行動する傾向が多々あります。物事が行き詰まり上手く行かないと思える時、周囲を批判し、他人を責め、挙句は自分を責める。その結果ストレスを抱え鬱病になる人もいます。そんな時「これでいいのだ〜」は他人に対しても自分に対してもホットさせる優しさと、思いやりの気持ちが生じてき

ます。

他人を心配し過ぎる事も、見方を変えれば、その人が問題を自分で処理する能力がないと決めつけているとも言えます。他人を信頼してゆだねる表現としても「これでいいのだ〜」は使えます。他人の自分に対する批判も、又、他人の不幸と思える事も「俺には関係ない」よりは「これでいいのだ〜」でスーとやりすごせば自分を追い込むこともありません。その上で、他人と自分の最高価値の実現に向けて自身の創造的エネルギーを発揮させるべきであると思います。

赤塚氏に可愛がられた「タモリ」は弔辞で「私は彼の多くの作品の一つです」「彼は全ての出来事、存在を常に前向きに受け止めていた云々」と述べたそうですがこの意味も深いと思います。 眞崎 雄一

豊富な工法から最適の提案を

角藤の基礎工事は既製杭、摩擦杭、地盤改良など幅広い分野にわたります。地質・地盤条件に応じ、特徴の異なる多様な工法を比較検討し、ご要望を実現する最適の工法をご提案しています。



株式会社 角藤

角藤

検索

<http://www.kakuto.co.jp>

■千葉支店

千葉市中央区新千葉2-7-2 大宗センタービル3F
〒260-0031 TEL. 043-246-1131 FAX. 043-246-1119

■本社/長野 ■支店/東京・千葉・横浜・水戸・前橋・新潟ほか
■営業所/さいたま・名古屋・東北ほか

編集後記 (2008. 9. 9)

8月の各地のゲリラ雨。何十年も住んでいるがこんな浸水被害は初めてという声しきりだった。異変は国内だけではなく、しかも数十年単位程度の出来事では無いようだ。北極海のカナダ北部では4000年前に形成されたという33平方キロに及ぶ棚氷が崩壊しているし、南極では房総半島に匹敵する大きさのウィルキンス棚氷も崩壊を開始したという。今我々は、かなり長いスパンで起こる変動の、入り口にいるのかもしれないです。福田退陣で有名になった「私はあなたと違うんです」といった言葉より「私の見通した先に、うまくいかない可能性があるんです」といった言

葉に注目すべきと思う。一国の総理として、それこそ私達と違う高度な情報を得た上での発言。いや、無能の振りをして退陣すべきだったものを、ついに知らんぷりしきれなかった風情を受信するのだが、メディアはこの発言を詮索すべきなのだ。再組閣した8月には半年程の見通しがあつたはずで、たった一ヶ月で「他の人がよい」と放棄した理由は、隣の人の嫌がるのができない総理には見通せなかった、キャパを超えた外交問題が、遅くとも数ヶ月以内に発生する可能性が生じている、と想像します。周辺国の経済のデフォルトか、ミサイル着弾のシナリオか、妄想であつてほしい。事故米による食品汚染。

自らは食しないが消費者が食するのはノープロブレムという、日本人離れた経営者だらけの実体が明らかになり、内憂外患の極みだ。次期総理には勧善懲悪の快刀を振るって乱麻を断つてほしい。今後は広告・宣伝に惑わされることなく、店頭で現物お毒味によって買い物しよう。時に社長自ら毒味をする会社こそ優良企業ということになり、、、ならないか。メディアは日光の三猿を決め込むばかり、社会の木鐸は死語になってしまった。この先に何かあるか。もう止まらないのか。金で転ぶなら芸者におなりって、スナックのママが社員に言っていました。なれると良いね、、、(^:。(安田)